

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	必修
担当教員			
築 雅之			
授業のねらい（概要）	情報技術及びネットワーク技術、情報教育に関わるビジネスパーソン及び研究者に必要とされる素養、知識、技能を育成するために以下のトレーニングを集中的に行う。 (1) 英文による関連分野の一般向け記事の多読、要約、発表 (2) 専門家向けの記事、論文の要約、発表 (3) テーマ設定、研究計画の策定 (4) 文献調査 (5) 修士論文の先行研究部分の執筆、発表		
授業計画	<p>おおむね以下の予定で進行するが、受講生の関心等で調整することがある。またテーマ変更に対応して、前段階に戻ることもある。</p> <p>4-5月 テーマ設定、研究計画策定 6-7月 文献調査、先行研究の要約 9-10月 文献調査、先行研究の論点分析 11-12月 先行研究部執筆 1月 中間発表会準備</p> <p>上記に加えて、年間を通して、ACM(Association of Computer Machinery)が選択し梗概を公開している「TechNews」記事全タイトルを読み、毎週3本程度の要約を行なう。</p> <p>予習（時間）：毎回の英文記事要約 教員の指示に従い、調査、執筆、発表準備（180） 復習（時間）：要約記事の確認 教員の指示に従い、再調査、原稿修正、発表修正（60）</p>		
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	DP(商学研究科)の以下の項目を意識した実習科目である。 ●調査、研究のために必要となる様々なスキルを身に付け、企業や産業が直面する諸課題に対し高度な判断能力、分析能力を活用することができる。		
到達目標	(1) 情報技術及びネットワーク技術、情報教育関連の一般向けの記事が和文・英文ともに読むことができる。 (2) 自らの研究テーマを設定し、研究計画を策定することができる。 (3) 研究テーマの文献調査を行ない、先行研究の論点を16000字程度にまとめることができる。 (4) 上記内容を15分程度にまとめた報告ができ、報告後の質疑応答に対応することができる。		
課題や小テスト等のフィードバックの方法	個別指導の一環として、コメント、発表指導、加筆指示等を随時行う。		
履修上の注意	2年という短い期間で、進歩や変化の激しい分野にキャッチアップし、専門性を身につけるといふ困難な学修に取り組んでいることを常に意識すること。		
成績評価の方法・基準	授業への取り組み（毎回の記事要約、研究計画、文献調査、先行研究要約、発表など）50% 期末課題50%		
教科書			
参考書・教材	【教材】授業時に配布する		
備考	演習科目		
教員との連絡方法	大学ドメインのメール、Mellyでの個別連絡を併用。Line、Gmail等は原則として使用しない。		